

ネギ栽培はサンアグロの肥料で秀品率・収量UPへ！

ネギ栽培にとって『品質を高める』、『収量を増やす』ことは必要不可欠です。しかし、昨今の異常気象や人手不足などいかに効率良く生産できるかがカギとなっています。そこで、今月号は『ケレスP』、『匠ブレンドネギ専用』、『千代田化成』で“品質向上・収量増大”を目指すおすすめの方法を紹介いたします！

～ネギの特長～

- 浅根性の作物で根張りが弱いため、土壌中の養分を少しずつ吸収します。
- 25℃以上の高温や多湿に弱い、乾燥には強いです。
- 生育期間が長いため、複数回の追肥が必要です。

ネギ栽培では、根の生育の充実により高品質・多収を実現できる可能性が高まります！
そこで重要なのが、、、“リン酸”です！

～そもそもリン酸はどんな働きをしている？～

根の発育を促す役割

細胞分裂が活発になるため、根を伸ばしていきます。

光合成を活発にする役割

作物体内のエネルギーの流れが活発になり、生育も促進されます。

育苗期：『ケレスP』で根をしっかり伸ばそう！



『根の生育促進、植付後の早期活着』

★メリット

- 生育初期に健全な根を发育させ、**養水分吸収力の底上げ**に期待できます。
- 植付後の活着が早く、スムーズに初期生育が確保されるため、生育環境の変化にも対応できることが期待されます。

★使用事例(新潟県)

- 施肥量:1,000倍希釈で約350ml/トレイ
- 施肥方法:灌水処理
- 施肥回数:播種後約2週間から1週間おきに3～4回処理

基肥&追肥：硫黄とネギは相性ぴったり！

『辛み成分の構成、高温時期の肥効抑制』

★メリット

- 硫黄被膜は、土壌中で分解して硫黄栄養となり作物に利用されます。
- 硫黄は**ネギの辛み成分**である硫化アリルを構成します。
- N-P-Kの設計が山型なので**リン酸を多く施用**できます。

★特長

『匠ブレンドネギ専用10号』は長効きする**硫黄被覆肥料**を配合しているため、養分の吸収力が弱いネギでも無駄なく吸収できます。生育が停滞する7～8月頃の猛暑でも溶出が緩やかなので、**肥料の効き過ぎによる病害リスクの軽減**も期待できます！

★溝施肥での使用例(200kg/10aの場合)

施肥回数	定植時(kg)	埋戻し時(kg)	土寄せ時(kg)
2回	40～80	120～160	—
3回	40～80	40～80	40～80



追肥：千代田化成はリン酸の効きがバツグン！

『葉鞘の充実、仕上がり向上』

★メリット

- 太く締まった葉鞘**の形成に期待できます。
- 素早く溶けて根圏へ広がるので、生育状況に応じた**適期の追肥**で品質向上が期待できます。

★特長

『千代田化成』は、根圏への“**拡散性の高さ**”が強みです。土寄せ後でも根圏まで肥料成分が行き届き、**土寄せ時期に左右されない適期の追肥**を可能にします。さらに“**超速効性**”を活かした収穫前の仕上げの施肥は、**ネギの葉色を一段と濃くして秀品率向上**を後押しします！

★『千代田550』の施肥例(匠ブレンド使用の場合)

施肥時期	施肥量(kg)	目的
土寄せ後	20～40	収穫前の葉色付け

※『匠ブレンド』を使用しない場合は、生育状況に応じて適宜施肥してください。

